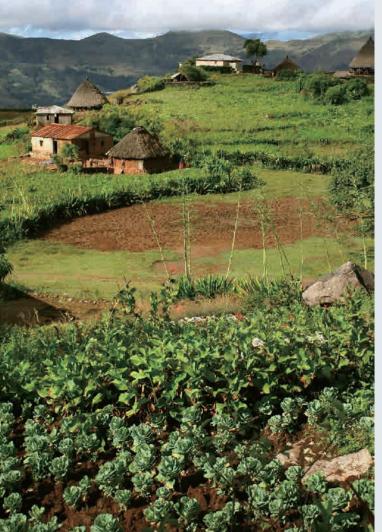
PSI への参加方法

■ IPSI に参加するには、申請書を IPSI 事務局に提出し、 運営委員会の承認を得る必要があります。

また、新規メンバーには、入会から6ヶ月以内に、社会生態学的ランドスケープ・シースケープ(SEPLS)での活動に関するケーススタディーを提出していただきます。

詳細は IPSI のウェブページ (http://satoyama-initiative. org/ja/) をご覧いただくか、IPSI 事務局 (isi@unu.edu) にお問い合わせください。









Institute for the Advanced Stud

SATOYAMAイニシアティブ国際パートナーシップ(IPSI)、 国連大学サステイナビリティ高等研究所(UNU-IAS)

住 所:〒150-8925 東京都渋谷区神宮前5-53-70

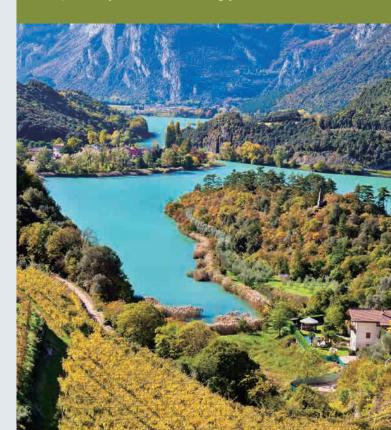
 $E \times - \mathcal{N}$: isi@unu.edu

ウェブサイト: http://satoyama-initiative.org/ja/



SATOYAMA イニシアティブ 国際パートナーシップ(IPSI)

http://satoyama-initiative.org/ja/



2015年3月

SATOYAMAイニシアティブは、「人と自然の共生」という理念のもと、環境省と国連大学サステイナビリティ高等研究所 (UNU-IAS) が提唱したものです。このイニシアティブを推進するため、2010年10月、SATOYAMAイニシアティブ国際パートナーシップ (IPSI) **が生物多様性条約第10回締約国会議 (CBD COP10)の期間中に設立されました。

IPSIはメンバー間の情報 共有や協力を促進すること で、人と自然の良好な関係が 保たれた持続可能な社会の 構築に貢献しています。

**IPSI: International Partnership for the Satoyama Initiative



▲ ATOYAMAイニシアティブとは

SATOYAMAイニシア ティブは、農林漁業などの営みを 通じて自然資源が持続的に利用 され、人々が豊かな自然の恵み を享受してきた、日本の里地里山



のような地域(社会生態学的生産ランドスケープ・シースケープ (SEPLS)**)の保全と再生を通じ、自然共生社会の実現を目指す取り組みです。SEPLSは世界各地に存在し、生物多様性の保全や人々の暮らし、福利の向上に大きな役割を果たしています。

2010年1月にフランス・パリで開催された「SATOYAMAイニシアティブに関する国際有識者会合」にて、SATOYAMAイニシアティブの利点や概要、活動を推進するにあたっての留意点等を取りまとめた「SATOYAMAイニシアティブに関するパリ宣言」が採択されました。

その後、CBD COP10の決定に始まりCOP11、COP12の決定などでもSATOYAMAイニシアティブの有用性が確認され、



国際的な認知も高まりつつあります。

**SEPLS: socio-ecological production landscapes and seascapes

S ATOYAMAイニシアティブ 国際パートナーシップ (IPSI)とは

SATOYAMAイニシアティブ国際パートナーシップ(IPSI)は、SATOYAMAイニシアティブの考え方に賛同し、社会生態学的生産ランドスケープ・シースケープ(SEPLS)の維持や再構築に取り組んでいる団体で構成されるものです。メンバーは、以下の図に示す3つの行動指針と6つの実践的視点の重要性を共有しつつ、多種多様な活動を展開しています。IPSIはそれらのメンバー間の情報共有や意見交換の場を提供しています。

現在、IPSIには国・地方政府機関や、NGO・市民団体、先住 民団体・地域コミュニティ団体、学術・教育・研究機関、産業・民 間センター団体、国連機関など様々な団体が加入しています。

長期目標:自然共生社会



メンバーの数は設立当初(2010年)の 51団体から3倍以上 に増えました。

IPSIでは、多様な 団体の連携を促す ことで、相乗効果を 創出し、より効果的



な取り組みが世界各地で実践されることが期待されます。

PSIの活動

SATOYAMAイニシアティブの目標を達成するため、IPSIでは、知見の集約・発信、研究開発、人材育成や普及啓発、現地での活動など様々な取り組みが実施されるとともに、これらに対する支援も行われています。

こうして得られた知見や情報は、メンバー団体や関心のある参加者が集うIPSI定例会合や地域ワークショップ等を通じて共有され、各メンバーの活動に活かされると同時に、メンバー間の連携が促進されることが期待されます。

また、メンバーのSEPLSでの活動に関するケーススタディーを 収集し、ウェブサイト上で公開しています。メンバー間の連携活動も積極的に推進しており、「IPSI協力活動」として承認しています。

